



- 市民活動助成金選考会結果報告
- 第7回のっぽアカデミー開催
- 非営利活動支援センター意見交換会



市民活動助成金 対象団体決定！

2012年度の対象事業選考会が1月23日福島市市民活動サポートセンターに於いて開かれ、各事業の3団体が決定しました。各対象団体には10万円の助成金が支給されます。募集対象地域は、これまでの県北から県内全域へ拡大されました。

また、今回は福島銀行90周年を記念して、“高齢者”と“子どもの教育”をテーマに県内全域を対象とした活動団体の募集も行われ、選考会に加わるなど本事業と連携をはかりました。

ふくしまNPOネットワークセンター 2012 ふくしま元気市民活動助成金

1. 湖南自然塾プロジェクト
「湖南自然塾プロジェクト」
2. 南相馬市国際交流協会
「ワールドハートフルカフェ」
3. 郡山水と緑の案内人の会
「現代に生きる安積疏水の啓蒙活動」

福島銀行 90 周年事業

ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金

1. ふるさとの川・荒川づくり協議会
「子どもの環境教育、河川学習事業」
2. NPO 法人 地域生活支援ネット One One
「障がい児余暇支援事業」
3. NPO 法人 陽だまりハウス
「山谷温ピアノ教室」



▲8名の審査員による選考会のようす

福島銀行より この度は、選考委員の方々に助成先3団体を決定していただきました。対象先を県内全域として募集させていただき、有意義に活用していただける団体への助成が最も喜ばしいことと考えていたところ、それらにふさわしい団体並びに助成事業が選考されたものと思います。

当行は創立 90 周年を契機に、この助成金の取組みを開始したのですが未来づくりのために元気に活動している団体を応援するため、今後も継続して取り組んでまいりたいと考えております。

◆ 「やない市民活動センター」開設記念講演会 ◆

～山口県柳井市での遠距離講演～

山口県柳井市に招かれ、講演を行ってきました。「やない市民活動センター」の開設記念の講演会でした。学会では遠距離講演は茶飯事ですが、NPOに関わる話では、最遠距離講演となるでしょうか。なぜ、ふくしまNPOネットワークセンターに話が舞い込んだのか、興味津々で尋ねましたところ、次のような回答が返ってきました。震災復興において、中間支援組織・支援センターがいかに取組んでいくべきか、東日本大震災の渦中にある福島の中間支援組織・支援センターの経験を学びたい、ということでした。山口県柳井市は人口4万人強、岩国市に近く、山口県内に所在するものの経済圏としては広島市の影響下にある、とのことでした。柳井市のNPO法人数は10法人で、ざっと見たところでは、保健・医療・福祉系や社会教育系のNPOが多いようです。

講演の内容としては、2点に絞ってお話をさせていただきました。1点目は、福島市市民活動サポートセンターの誕生の経緯やチェンバ大町の施設に至る経過、施設内容や利活用の状況について、課題等も含めて率直にお話をいたしました。2点目は、ふくしまNPO・市民活動団体連携復興(ふくふく)プロジェクトの活動についてです。時間の経過とともに、復興支援の内容も変化していくこと、NPO・市民活動団体の情報共有の必要性についてお話をしました。市長さんは40歳ぐらいの市民活動に理解のある方で、講演も熱心に聞いていただいた上、講演後、白壁土蔵が軒を連ねる柳井名所で、会食をともにいたしました。会津と長州、NPOつながりで今後仲良くやって行きまよう、ということになりました。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター理事長 星野珉二)

『プロボノを NPO はどう活用すべきか ～長野県の取り組み～』

プロボノとは、各分野の専門家が、職業上培った知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動のことを言います。1月8日に開催された研究会では、市民協の田中尚輝さんと山本良顕さんをお招きし、長野県での取り組み事例について話していただきました。

以下、長野県での業務報告書からの一部抜粋です。



1 業務実施期間

平成23年12月19日～平成24年3月31日

2 NPO 人材育成事業開催方針

これから退職する世代と既に退職しているシニアを対象として、NPO を支援する人材を養成する。ただし、若い世代の参加も歓迎する。この修了生を「NPO コンサルタント」(プロボノ)として、新たに創造する「タレントバンク」に登録、あるいは自らが起業し、活躍できるシステムを形成する。

そして、これらの人々の登録だけではなく、支援を求めるNPOとのマッチングの支援をおこない、成果があがるようにしていく。また、ホームページも県内の中間支援 NPO と連携して作成する。なお、開催場所は長野市と諏訪市の2か所とし、各会場に15名程度の参加者を確保する。

3 カリキュラム 研修(42時間)

① NPO に関する講義・ワークショップ

6時間 NPO 法解説と長野県の NPO の現状

6時間 現代社会と NPO の役割

(「新しい公共」と NPO)

6時間 NPO と企業の相違点

6時間 NPO と行政、企業の協働

6時間 NPO のマネジメント

6時間 NPO からの報告とグループワーク

6時間 参加者のまとめと決意交換

② NPO 視察研修3日間(18時間)



▲チョコラボの研修スペースにて

◆市民セクター全国会議研修会 参加報告◆

昨年の11月22日、23日の2日間、東京で開催された市民セクター全国会議2012に参加してきました。この会議は、市民セクターの位置づけや自らのあり様について議論することを目的に、日本NPOセンターと実行委員の主催で、2002年から隔年で実施されています。

今回の全国会議は、「“動く”を究める」をメインテーマとし、「自ら動く」「つながって動く」「支えるために動く」の3つのテーマのもとで開催され、テーマごとに2日間で計9つの分科会が行われました。

私が参加した「自ら動く」がテーマの分科会では、南相馬市や柏市で行政と協力して除染活動などを行った団体から活動内容の発表がありました。互いに協力しあうには、一方的に求めるだけでなく、自分達もできる限りのことを行い、その上で協力を求めることが大切とのことでした。発表者の話や、発表をうけて行う討議のなかから、自らが活動するうえでのヒントを見つけることができます。そして、前向きに社会問題の解決に取り組んでいる多くの方と接することにより、自分も頑張ろうという元気を与えてもらえます。

活動をするうえでのヒントがほしい、元気がほしいという方は、是非、2014年の全国会議に参加されてみてはいかがでしょうか。

(報告:福島市民活動サポートセンター職員 櫻井千鶴子)



◆非営利活動支援センター意見交換会に出席して◆



▲福島県文化振興課をはじめ、県内各地域から9つの支援センター関係者が集まった。

昨年の12月11日、ふくしま地域活動団体サポートセンターの主催で、福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課、9つの支援センター関係者が郡山市に集まった。県内の支援センターが集まるのは久方ぶりなのだそうだ。

私は、これまで、全国市民セクター会議などで、全国の支援センターが集まる場に出席すると、他県の支援センターのネットワークのあり方を耳にし、うらやましく思うことも多々あったので、「交流会でどんな意見が交わされるのだろう」と、楽しみでもあった。

議題は『昨年4月より新しいNPO法が施行されていることに伴った「特定非営利活動法人の設立・管理運営の手引き」の改定について』、『県内支援センター・福島県との相互連携の今後の可能性について』の2点。これまで受けてきた問合せや運営経験などをふまえての様々な意見がだされたが、支援センターのかかえる共通課題は、「資金面」と「マンパワー不足」のようだ。それを補う意味での情報の共有化は必要不可欠になってくる。この意見交換後、早速、助成金や講座の情報が盛り込まれたメールや電話があり、当センターでも役立っている。

これまで、お会いしたことがなかった支援センタースタッフ同士が顔をあわせたことで、情報の流通がスムーズになることを期待したい。また、今回の意見が盛り込まれた「特定非営利活動法人の設立・管理運営の手引き」の完成も楽しみだ。

(報告:福島市市民活動サポートセンターチーフ 内山愛美)

◆『チャイルドライン』受け手養成講座開催◆

2月2日(土)より、チャイルドラインふくしまの第一期『受け手養成講座』が下記の日程で開催されることになりました。こどもたちの声を共に聴き、こどもたちの想いを受け止め、こどもたちと考え、こどもたち自身が決定していけるように伴走する、そんな「受け手」のボランティアを養成します。

- 日時 2/2(土)・2/23(土) 10:15~16:30
2/7(木)・2/14(木)・2/21(木) 14:45~18:30
- 場所 福島市市民活動サポートセンター チェンバおおまち3階
TEL 024-522-4841
- 費用 10,000円(学生の方は5,000円)
初回受講時に一括でお支払いいただきます。
- 講師 神 仁 氏(チャイルドライン支援センター代表)、小林純子 氏(チャイルドラインみやぎ代表)、野口まゆみ 氏(西口クリニック 婦人科院長)、立柳 聡 氏(福島県立医科大学看護学部看護学科講師)、橋本久仁彦 氏(fence works 円座作業員)、攪上久子 氏(臨床発達心理士)、福島県児童相談所職員

※チャイルドラインふくしま準備会に関してはこちらをご覧ください⇒<http://ameblo.jp/cl-fukushima/>

◆チョコラボ 進捗状況◆

チョコラボでは coworking space にて、「初心者・中高年パソコン講座」を開催いたしました。講師はオフィス K の木谷徳智先生にお願いし、週に2日間の1日2時間で計6日間。講座内容は文字入力、文章作成、インターネット、メール、スカイプなど中心に実施しました。参加者は10名、避難者の方も受講しました。アカウント作成やID取得には少し手間がかかったようでしたが、みなさんに大変満足していただきました。「次はExcelやHPなどの講座をまた開催してほしい」という声もたくさん出ているので、ただいま検討中です。

また、12月から「チョコラボセミナー」を開催しています。デジカメ動画編集、復興支援活動、親子で楽しめる講座や栄養バランスなどいろんな分野



の講師の貴重なお話をいただき、毎回好評です。ひき続き2月も予定しています。

(報告:担当理事 深田俊雄)

◆新たな一歩 進捗状況◆

～インターンシップ事業の最終盤を迎えて～

内閣府主催の単年度インターンシップ事業は、おかげ様で当NPOの総力をあげ最終局面を迎えています。“私たちが支えます 笑顔の福島へ～逃げない投げない諦めない～”を合言葉に、予定人員と財政面で目標を超える成果をあげています。これには、「チョコラボを活用した福島県地域づくり総合支援事業」との連携が大きく寄与しています。その成果を報告します。

講師陣のユニークな講話によって、我慢していた悲しみや辛さが解き放たれ、涙があふれ出す場面が二度ならずありました。避難者たちや高齢者の働きたいという強い意志に、100%就労めざした同伴が続いています。

- ① 修了者29名:就労者16名(55%)、ボランティア6名(21%)、求職中7名(24%)
研修途中で就労した者12名、病気治療1名
- ② インキュベーション事業で連携同伴した起業家13名(起業支援金採択者10名)

(報告:新たな一歩福島市事務局長補佐 半田節彦)

—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

●チョコラボ

〒960-8031 福島市栄町 7-33 錦ビル 4F
TEL 024-573-1970 FAX 024-573-1971
E-mail cholab@npo.-f.org

—福島市より受託、運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

●まちなか ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

編集後記



☒ 暦では立春ですが…まだまだ寒いですが。インフルエンザが流行りつつあるようです。手洗いうがい忘れずに!

(事務局・根本 靖子)

☒ この冬は寒さが厳しいと感じるのは気のせいでしょうか。それとも年のせい?とにかく、春が待ち遠しい毎日です。

(事務局・大山亜紀子)



●編集・発行

特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F
TEL 024-528-1211
FAX 024-528-1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>

